

2020年3月期 第3四半期 決算説明会資料

2020年2月4日@ステーションコンファレンス東京
7741.T [ADR: HOCY US] HOYA株式会社

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益	1,434	1,465	+31	+2%
税引前四半期利益	397	383	-14	-3%
四半期利益	331	297	-35	-11%
cf. 通常の営業活動 からの利益	399	383	-16	-4%

HDD基板やブランクスにけん引され増収となったものの、コンタクトレンズの消費増税後の反動減などにより減益

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,501	1,465	-36	+67	+5%
税引前四半期利益	387	383	-3	-10	-3%
四半期利益	299	297	-2	-32	-10%

主要通貨	(A)Q3 FY18 レート	(B)Q3 FY19 レート	変動率
US\$	¥112.58	¥109.33	+2.9%(円高)
EURO	¥128.21	¥121.53	+5.2%(円高)
BAHT	¥3.42	¥3.62	-5.8%(円安)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY
収益合計	1,451	1,482	+31
費用合計	1,054	1,098	+44
減価償却費	65	87	+22
税引前四半期利益	397	383	-14

新リース会計基準の適用により減価償却費が22億円増加したが、その他の費用が減少するため、費用合計に対してはニュートラル。

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	939	925	-14	-2%
税引前四半期利益	191	153	-38	-20%
cf.通常の営業活動 からの利益	196	157	-39	-20%
cf.通常の営業活動 からの利益率	20.9%	16.9%	-4.0pt	

*外部売上の数値

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q3 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	951	925	-26	+12	+1%
税引前四半期利益	153	153	+0	-38	-20%
cf.通常の営業活動 からの利益	157	157	-0	-39	-20%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	483	527	+44	+9%
税引前四半期利益	215	235	+20	+9%
cf.通常の営業活動 からの利益	216	236	+21	+10%
cf.通常の営業活動 からの利益率	44.7%	44.9%	+0.2pt	

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q3 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	536	527	-10	+54	+11%
税引前四半期利益	238	235	-3	+23	+11%
cf.通常の営業活動 からの利益	240	236	-3	+24	+11%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ/コンタクトレンズ

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	693	668	-25	-4%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	686	668	-7	-1%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	246	257	+11	+5%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	265	257	+19	+8%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	383	439	+56	+15%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	447	439	+64	+17%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

映像関連製品 光学レンズほか

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	100	88	-12	-12%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	89	87	-11	-11%

*外部売上の数値

貸借対照表

(億円)	Q2 FY19	Q3 FY19	QoQ
非流動資産	2,798	2,912	+113
流動資産	5,169	5,223	+54
資本	6,370	6,528	+159
非流動負債	314	311	-3
流動負債	1,284	1,295	+11
資本及び負債合計	7,968	8,134	+167

自己株式を消却（223億円）したことなどにより、資本は159億円増加

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY
営業活動によるCF	341	401	+60
減価償却費	65	87	+22
投資活動によるCF	79	-117	-196
財務活動によるCF	-163	-279	-115
リース負債の返済による支出	-	-23	-23
現金及び現金同等物 期末残高	2,723	3,044	+321

新リース会計基準の適用により、減価償却費（営業CF）とリース負債の返済（財務CF）の間で入り繰りが発生。

自社株買いの状況

自社株買い① 昨年10月末に終了

取得上限：600億円

期間：2019/5/8～2019/10/28

取得株式総額：241億円（消却済）

自社株買い② 実施中

取得上限：500億円

期間：2019/10/30～2020/4/23

現時点までの取得総額：92億円（2020年1月末現在）

今期において実施した自社株買いは現時点で333億円（①＋②）。

Q4 & 通期 予測

- ✓ コンタクトレンズは増税の反動が続くものの、QoQでインパクトは和らぐ見込み
- ✓ 半導体ブランクスはEUVの需要にけん引され、Q4も強いモメンタム継続
- ✓ HDD基板は例年どおり季節要因（旧正月）でQoQで落ち込むが、YoYでは増収を見込む

FY19 Q4

(億円)	Q4 FY18	Q4 FY19	増減	増減率
売上収益	1,415	1,446	+31	+2%
税引前四半期利益	314	354	+41	+13%
四半期利益	292	282	-11	-4%

FY19 通期

(億円)	FY18	FY19	増減	増減率
売上収益	5,658	5,860	+202	+4%
税引前当期利益	1,447	1,550	+103	+7%
当期利益	1,221	1,230	+9	+1%

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]

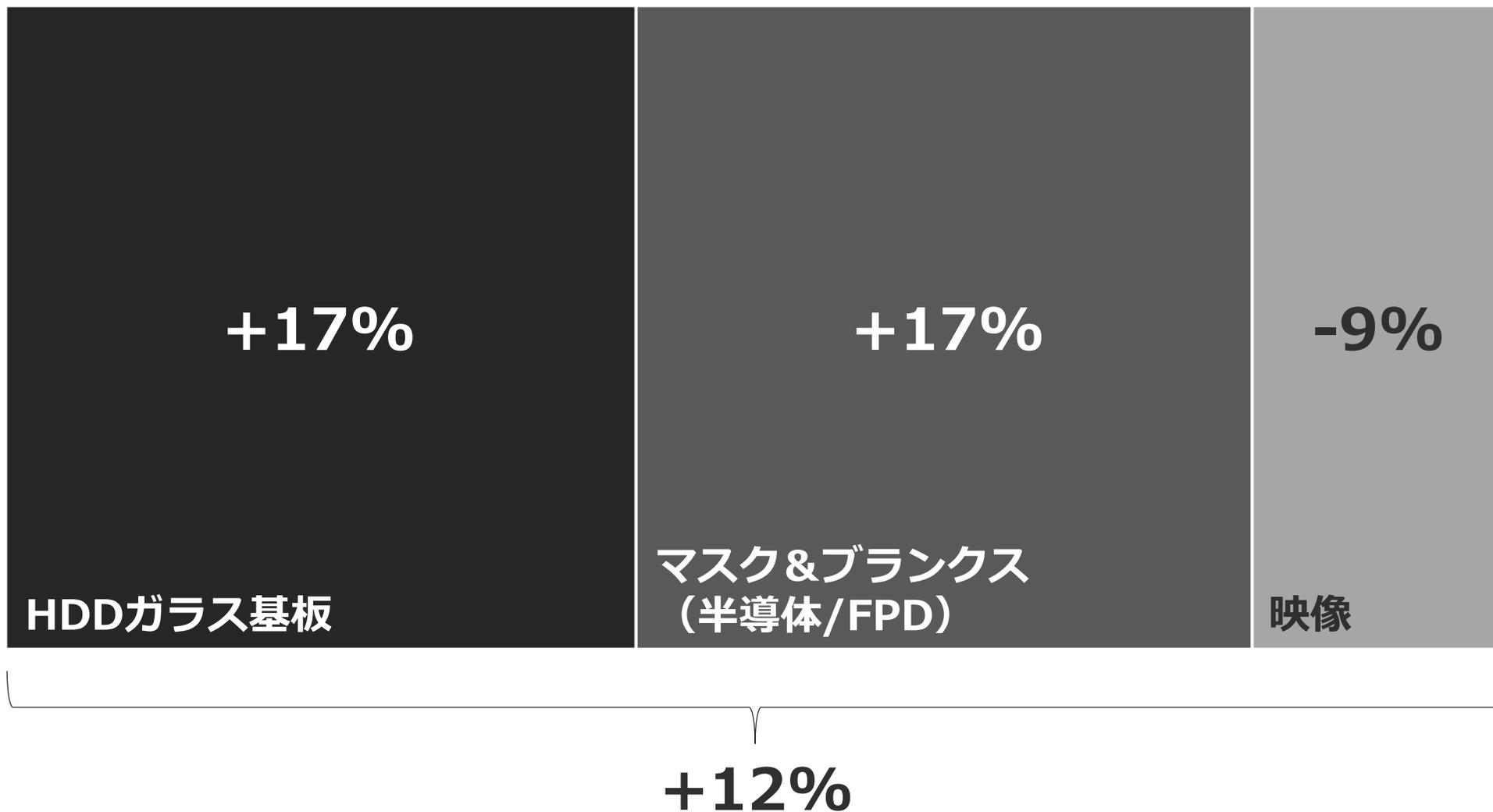
3. ライフケア事業概況

4. 総括

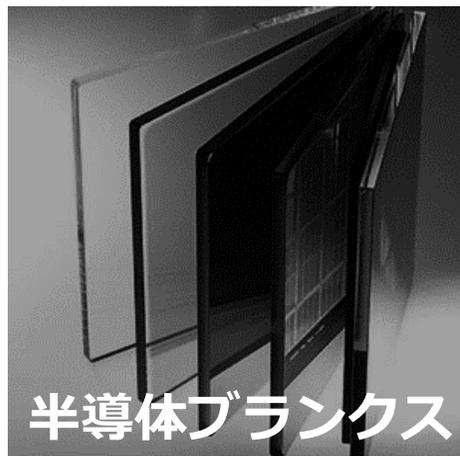
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況



足元

一部顧客の在庫積み増しの反動からオプティカルは微減。EUVは前期比80%以上の伸び

今後

4月にシンガポールの新EUV製造ラインが稼働開始、認定を経て来下期より量産開始予定



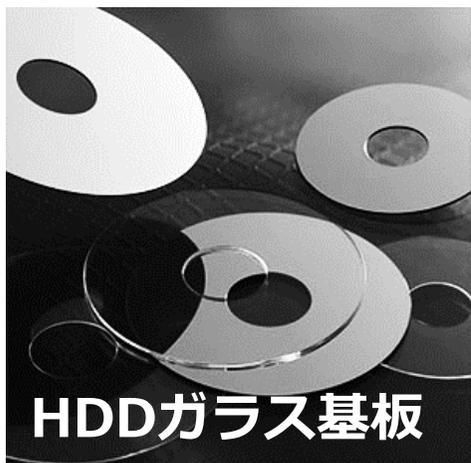
足元

中国市場におけるOLEDの需要増を取り込み成長（主にG6）

今後

今後さらなる成長が予測されるOLEDマスク、中でも中国市場での拡大を推進

製品別概況

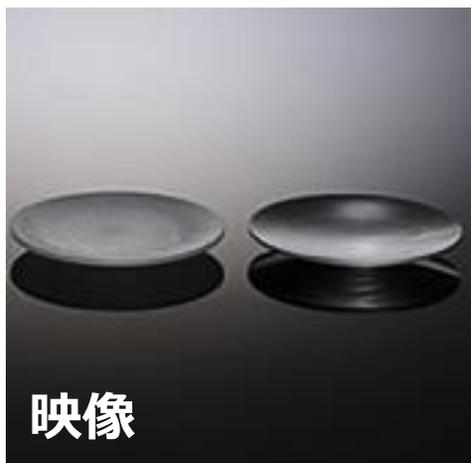


足元

データセンター向けの需要増により3.5"売上が2.5倍の成長。3.5"売上比率は42%に拡大

今後

ラオス新工場（3.5"向け）が4月よりサンプル出荷、認定を経て来下期までに量産開始予定



足元

カメラ市場の縮小により、引き続き減収

今後

積極的なコスト削減により収益性を確保

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

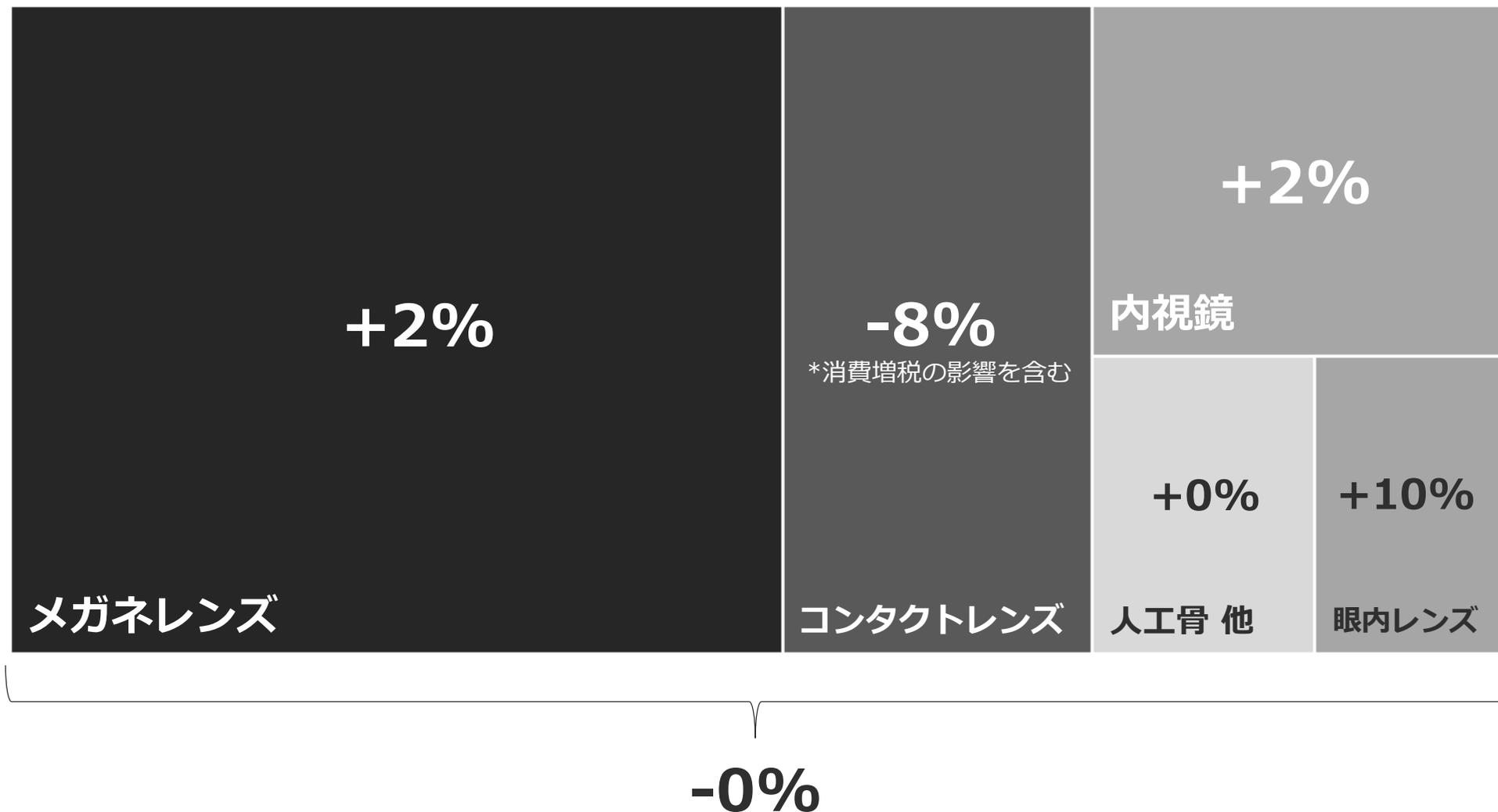
3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]

4. 総括

5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況



メガネレンズ

足元

増税影響等で日本が減収も、欧州やアジアの高成長が継続。ベトナム第2工場がテスト生産開始

今後

商戦期のQ4を着実に売上に結びつけていく。
ベトナム第2工場を徐々に立ち上げ



コンタクトレンズ

足元

増税に関連した駆け込み需要から反動減に。
期末店舗数 326（買収込み）

今後

新規出店や空白地帯でのM&A等により、
継続的に面の拡大を図る

製品別概況



眼内レンズ

足元

APACが二桁成長、中でも中国での汎用製品の販売が拡大した

今後

中国でのハイエンド製品販売開始を準備。新型インジェクターなど、新製品を順次投入



内視鏡

足元

米州で製品投入が遅れたものの、新製品の上市が先行している欧州が順調

今後

引き続き新製品を続々投入

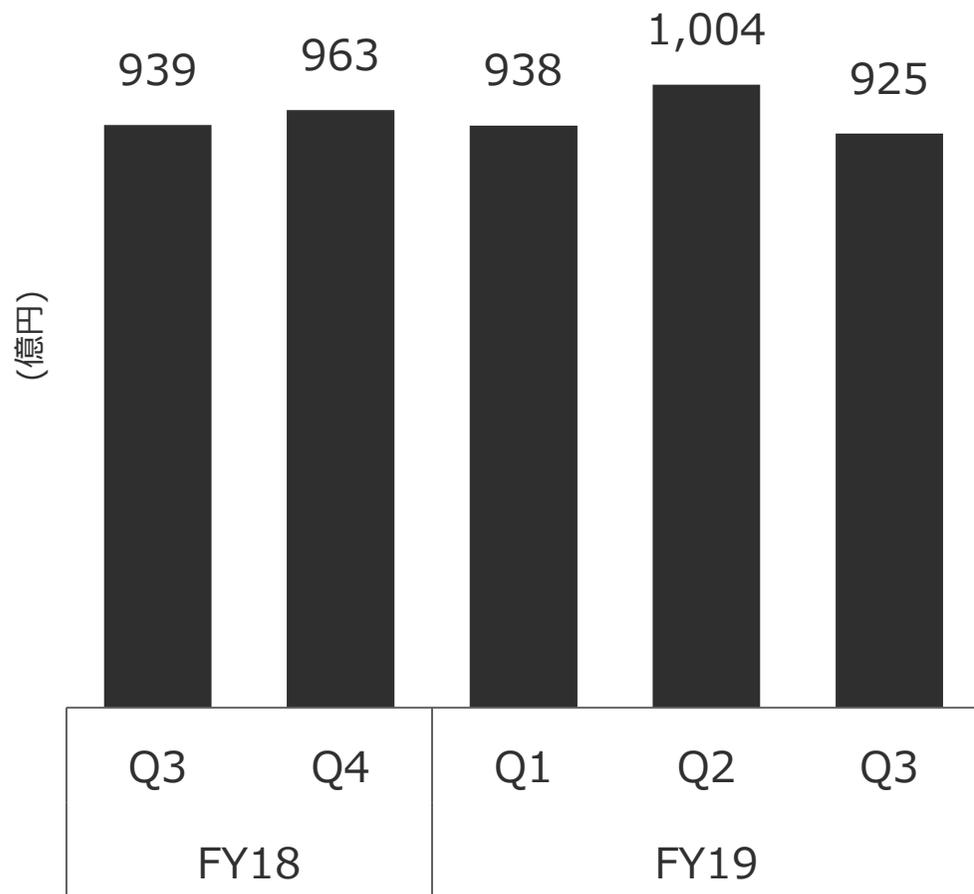
1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

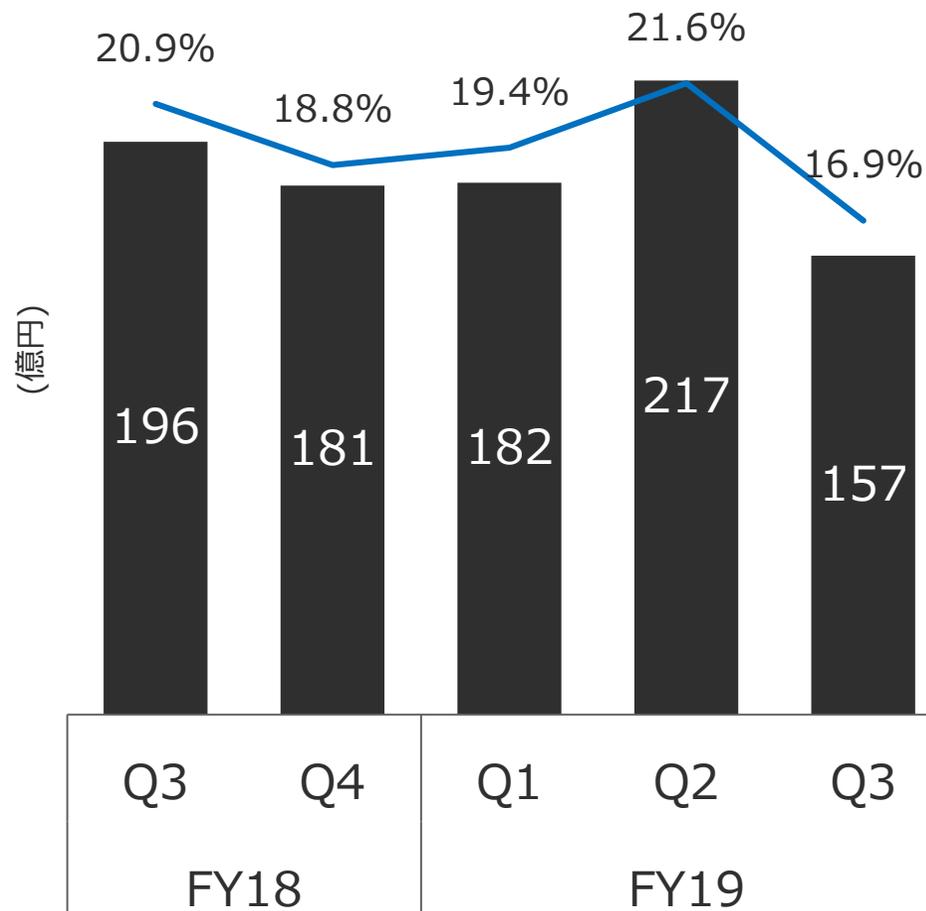
Appendix

ライフケア事業 QoQ推移

売上収益



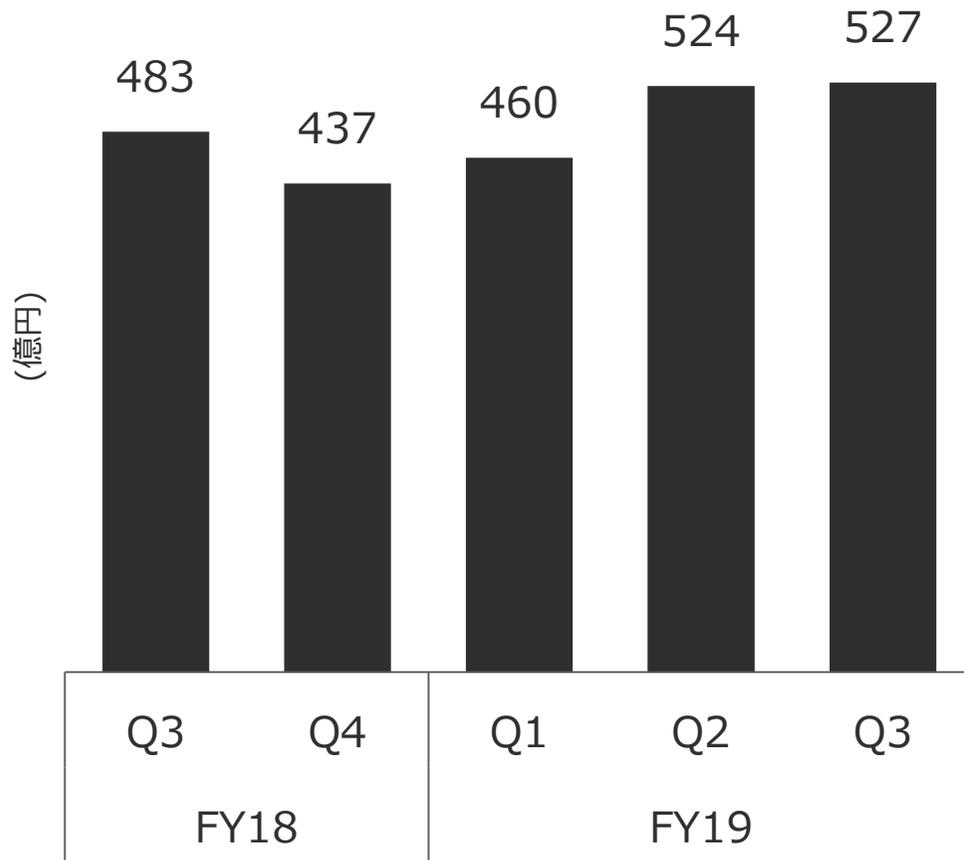
cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



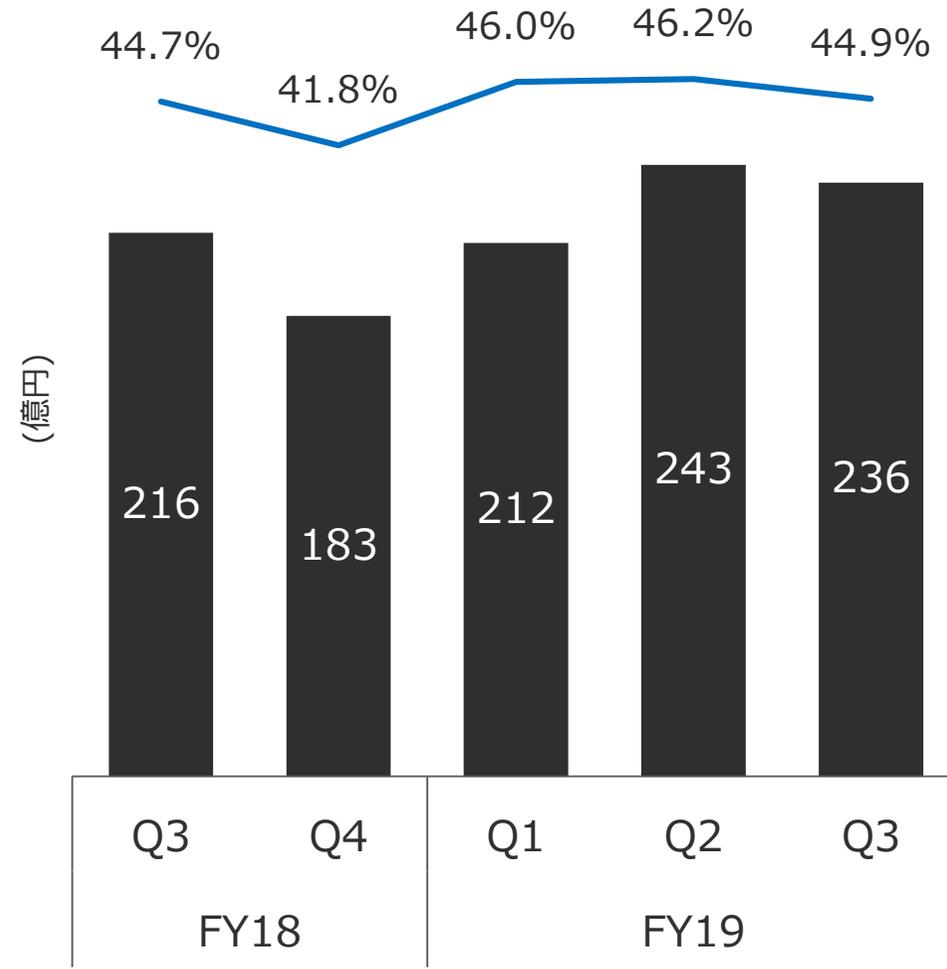
*外部売上の数値

情報・通信事業 QoQ推移

売上収益



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



*外部売上の数値

[メガネレンズ] ベトナム新工場がテスト生産開始

2019年11月、ベトナム中部のクアンガイにてメガネレンズの新たな生産拠点の稼働を開始しました。8ヘクタールの広大な敷地に2つの建屋を擁し、年間で最大1.4億枚のメガネレンズ（汎用レンズ）を生産、世界最大級のメガネレンズ生産規模により、グローバルで増加を続ける需要に対応していきます。現在は第1建屋にてテスト生産を開始していますが、FY20初頭には第2建屋も稼働開始予定です。



暗所視支援眼鏡を全国の盲学校に

社会福祉法人日本ライトハウスが発起人となっているクラウドファンディング『盲学校の生徒に星空を。暗闇で見える暗所視支援眼鏡を届けたい。』プロジェクトに協賛いたしました。クラウドファンディングでは目標の300万円を大きく上回る 348 万円の寄付が集まり、当社は全国12校の盲学校に、暗所視支援眼鏡「HOYA MW10 HiKARI」を特別価格にて贈呈しました。HOYA は今後も日本ライトハウスによる本寄贈プロジェクトを支援していきます。



本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2019年4月～2020年3月の会計期間を2020年3月期もしくはFY19と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第3四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際のコラ額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。